

# 第1回 内航海運活性化・グリーン化に関する懇談会 議事概要

## 1. 日 時

4月27日（月） 10:00～12:00

## 2. 場 所

中央合同庁舎3号館11階 特別会議室

## 3. 出席委員

杉山座長、大和委員、中泉委員、北條委員、村山委員、上野委員、村木委員、谷口委員、藤澤委員、石渡委員、岡口委員、興村委員

（海事局）伊藤局長、大野次長、又野審議官、染矢技術審議官、丸山参事官、赤星参事官、蒲生総務課長、山本企画室長、小久保課長補佐、堀内財務企画室長、坂下安全・環境政策課長、萩川海事人材政策課長、蝦名内航課長、中野企画調整官、今出船舶産業課長

（港湾局）難波計画課長

（オブザーバー）

（総合政策局環境政策課）大塚課長、藤田地球環境政策室長

（政策統括官）山口参事官

## 4. 議 題

1. 懇談会の趣旨
2. 内航海運の競争力強化について
3. 内航海運の環境対策について
4. その他

## 5. 議事概要

国土交通省側から資料に基づき説明があり、その後、意見交換を行った。主要な意見等は以下のとおり。

- ・ 数年前には、内航のコストが高く、日本の素材産業の足かせになっているとの議論もあったが、これに対して、素材産業の競争力は高く、内航海運がその競争力を支えているとの調査結果もある。しかし、将来のさらなる効率化には、運航効率の改善、船舶の大型化、規制改革の推進等が必要である。
- ・ 業態別によって課題等が違う。陸上の輸送モードと競争をするもの、特定の物流の太宗を担っているものなど様々である。
- ・ 内航海運・内航フェリーに焦点を絞って議論することで、海上輸送への注目が集まり、貨物・

旅客がシフトすることに期待をしている。国民の海上輸送への興味関心は高まってきつつある。

- 船員の高齢化、CO<sub>2</sub>削減、アジアの動きなどの国際情勢の変化等、大きな環境変化の中で将来の国全体の物流をどうするのかといった視点も重要である。

また、産業としての海運に、船舶等の自動化などの視点を持ち込むことも効果的である。技術と制度と両方の検討のバランスが重要である。

システムの議論もして欲しい。例えば、船舶の標準化が進む中で、船員が同じ船に乗ったきりではなく、行きはある船に乗っていくが、帰りは別の船というようなシステムも現実的になってくるのではないか。

- ちょうど今年が総合物流施策大綱の改定年度であるので、産官学で検討を行っている。内外の物流が一体化してきており、内航・フェリーについては、国内輸送におけるグリーン化と国際輸送におけるフィーダー輸送の両方の視点から見る必要がある。